

英語英文学科履修案内

(2006から2009年度入学者に適用)

【英語英文学科の教育目標】

今日、英語は国際語として定着し、これからは文化的背景を異にする人々と英語を使って交流する機会がますます増えてくるだろう。英語英文学科では、高度の英語コミュニケーション能力を育成するとともに、英語学、英語教育、英語圏文学、英語圏文化の学修を通して、異文化と人間の普遍性についての深い見識をもち、国際化の環境の中で様々な課題に取り組む能力を備えた人材を養成する。

【カリキュラムの概要と特色】

英語英文学科のカリキュラムは、1. 専攻科目〔A群・B群科目と関連科目〕(96単位以上)、2. 共通科目〔FYS(2単位必修)、外国語科目(8単位以上)、教養系科目(22単位以上)〕(32単位以上)の2つの枠組みから成り立っている。卒業するためには、これらの科目を含めて128単位以上修得しなければならない。

【専攻科目の履修要領】

カリキュラムには、英語の運用・訓練を主眼とするA群演習科目群と、文学を含む英語圏文化の研究と英語を中心とした言語研究を主軸とするB群講義科目群とが置かれている。専門教育は1年次から開始されるが、3年次になるとより明確な形で「英語学」(英語教育を含む)、「英米文学」、「英米文化」の3分野に分かれる。これは同じ英語に関わる研究といっても、どのような側面を中心にするかによって修得の方向に違いが生じるからである。研究課題を決めるためにも、1・2年次においては、広くさまざまな科目をバランスよく履修して、自分の関心と適性がどこにあるかをしっかり見極めておくことが大切である。さらに、1年次から「卒業論文」(4年次)に至る専門研究の道筋を組み立てることもまた重要である。

授業科目については「年次」を用いて配当しているが、開講形式としてはセメスター制をとっている。英語英文学科の「教育課程表」の〔履修要件〕と〔卒業要件〕をよく読んで、単位修得の要領を把握すること。

1 A群とB群について

専攻科目について言えば、大きくA群・B群科目と関連科目とに分かれている。

A群は、「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」(2年次)、「専門研究Ⅰ・Ⅱ」(3年次)、「卒業論文」(4年次)以外はすべて演習を主体とする科目である。つまり、基本的には言葉の訓練をするという意味であって、読解力、聴解力、表現力など運用力を総合的につけることに力点が置かれている。なお、A群科目の単位は、「専門研究Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」を除いてすべて1科目1単位で、A群必修48単位を満たすためには43科目(「専門研究Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」を履修する場合)、ないしは48科目(「専門研究Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」を履修しない場合)の修得が必要である。B群必修30単位は15科目でよいのに比べて、A群からはより多くの科目を履修しなければならないことがわかるであろう。これは運用能力を高めるためである。

A群が演習科目であるのに対して、B群は英語学、英米文学、英米の文化・社会に関する知識を身につけるための講義科目である。

2 専門基礎科目について

A群の中で、1・2年次の科目には専門基礎科目として、聴く、話す、読む、書くという英語の基礎学力の強化・充実ははかるために、文法、作文、会話、音声学、時事英語、講読、L.L.、資格・検定英語と各種の演習科目が配置されている。専門基礎科目からは20単位以上を修得しなければならないが、2年次終了時までにはA群専門基礎科目の修得単位数が16単位未満の者は、3・4年次配当のA群科目を履修できないので特に注意が必要である。

3 3分野について

3・4年次の専攻科目には「英語学」(英語教育を含む)、「英米文学」、「英米文化」の3分野に区分された選択必修科目が置かれている。卒業要件として、3分野からそれぞれA群の選択必修科目を4単位以上、およびB群の選択必修科

目を8単位以上修得しなければならない。

●英語学の分野

英語という言葉の音声、構造と意味、機能と使用に関わる理論およびその歴史を学びながら、「英語について」の知識を深めるとともに、英語運用能力を涵養し、「英語を知る」ことにも力を注ぐ。さらに、将来、英語教育を志望する学生のための英語教育への応用もこの分野で取り扱う。

●英米文学の分野

英語で書かれた詩や小説、演劇、批評などを解説しながら言葉の精妙な働きを学ぶとともに、作品が生み出された文化的・歴史的背景を研究し、人間や社会への洞察を深める。

●英米文化の分野

英語圏の文化に関する理解力・洞察力を養うことを目的とする。具体的な研究分野は多岐にわたり、特定の国・社会の制度・歴史・思想などを考察する地域研究に加え、国家間に生じる問題を取り扱う国際関係論や他文化との比較研究も範囲に含まれる。また、文化間の交流に焦点をあてた異文化コミュニケーション研究や映画などの文化表象の批評も射程に入る。

4 共通科目（コミュニケーション）について

A群の共通科目（コミュニケーション）は、三つのいずれの分野を学ぶ上にも必要な、英語の高度な表現力養成のために設置された科目である。1・2年次の英会話や英作文の延長線上にある上級コースと考えてよい。表現力を音声言語（オーラル・コミュニケーション、スピーチ・ディベート、通訳演習）と文字言語（エフェクティブ・ライティング、翻訳演習）の両面から強化し、英語によるコミュニケーションの実践能力を高めるための科目である。

5 専門研究について

さまざまな学問の領域に興味と関心を持ち、視野の拡大を図ることは大学教育の目的の一つであるが、何を専門的に研究するかを自ら定め、その研究に関連する分野について重点的に学修することも、それに劣らず重要である。

専門研究は、1・2年次の学修を基礎にして、2年次の「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」から特定の研究課題（テーマ）に取り組み、3年次の「専門研究Ⅰ・Ⅱ」を経て、4年間の学修の集大成ともいうべき卒業論文を作成することを目的とする。専門研究は必修ではないが、学科カリキュラムの基幹として位置づけられており、多くの学生の履修が望まれる。

1年次の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の学修に基づき、2年次に「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」を履修する。

2年次の「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」では、指導教授の指導をもとに、専門的基礎知識と研究方法を修得する。

3年次の「専門研究Ⅰ・Ⅱ」では、卒業論文題目および内容の概要を担当教授に提出し、面接・選考を経て英語または日本語で卒業論文の作成を始める。

4年次の「卒業論文」では、指導教授から個別に指導をうけて卒業論文を完成させる。

専門研究の履修および卒業論文の作成・提出等についての詳細は、学科所定の『専門研究要項』、説明会や掲示等により指示するが、次の3点を挙げておく。

(1)「基礎研究Ⅰ」（1単位）、「基礎研究Ⅱ」（1単位）、「専門研究Ⅰ」（2単位）、「専門研究Ⅱ」（2単位）および「卒業論文」（4単位）3年間継続履修することを原則とする。

(2)「専門研究Ⅰ」の履修を希望する者は、2年次後期（4セメスター）に履修希望届を提出して、3年次の前期（5セメスター）に履修登録をする。

(3)卒業論文は、所定の提出日時に遅れた場合は受理されない。

なお、専門研究を履修しない者は、その代わりにA群から10科目10単位を履修しなければ卒業できないので、十分注意すること。

6 関連科目について

卒業するためには、関連科目として、「情報処理Ⅰ・Ⅱ」・「卒業要件単位数」を超える専攻科目（A・B群科目）・共通科目（外国語科目・教養系科目）、「教職に関する科目」、他学部他学科開講の専攻科目から18単位以上を修得しなければならない。

※大学が定める所定の手続きを経て、海外留学が許可された者の履修方法については、別途「留学生に関する取扱内規」に従うこと。

【共通科目の履修要領】

「F Y S（ファースト・イヤー・セミナー）」は2単位必修， 外国語科目はドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，朝鮮語のうち，各自が選んだ1外国語8単位が必修である。必修8単位は初級4単位と中級4単位をもって充当する。更に高度な運用能力の修得を希望する者は上級を履修することができる。（英語英文学科では英語を除いた上記のものを外国語科目として扱う。）教養系科目は，22単位以上を履修しなければならない。ただし， この22単位の中には最低，「人文の分野」，「社会の分野」，「自然の分野」の3分野からそれぞれ4単位，全体から10単位が含まれていなければならない。

【履修単位の上限】

一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合には，その科目の単位数を二分割し，前期・後期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし，4年次に限り特別の事情のある者は，学部長に申請することにより，卒業要件単位数の不定分を上限として，超過履修を許可される場合がある。なお，卒業要件単位に算入されない各種課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。